

「ふるさとの海辺づくり」を目指した学童児童との取り組み

○前田真里¹, 上月康則², 中西敬¹, 平井研¹, 松重摩耶¹, 中岡禎雄³, 山中亮一²

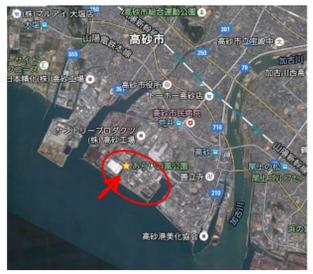
¹ NPO人と自然とまちづくりと, ² 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部, ³ 尼崎市立南武庫之荘中学校

背景: 海辺の歴史と海水池 (この浦舟池) ができるまで

活動場所



-人口: 約9万人
-面積: 34.45㎡



播磨臨海工業地帯内の兵庫県高砂市
あらい浜風公園内「この浦舟池」

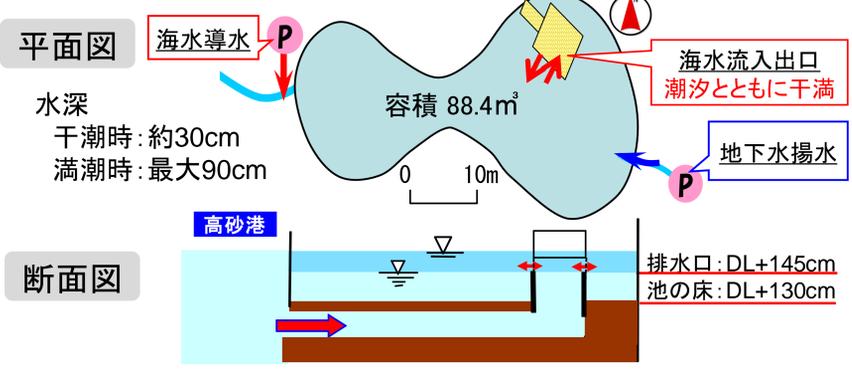


1973年、企業が海岸を独占していることに対し、「入浜権」が提唱された



海水池の課題と対策

特徴: 潮汐とともに干満のある海水池
海水の滞留時間: 約8時間
ねり石積みの構造: 空隙がない



環境問題
海藻が繁茂し、枯死、堆積、ヘドロ化
原因
高水温、閉鎖的、動物の生息場所がない



対策
① 海藻の除去 (堆肥化)
② 生物が生息する干潟の創出 (加古川河口干潟)
③ 市民の海水池: 学童児童と学習会, 干潟づくり



学童児童を対象とした環境学習



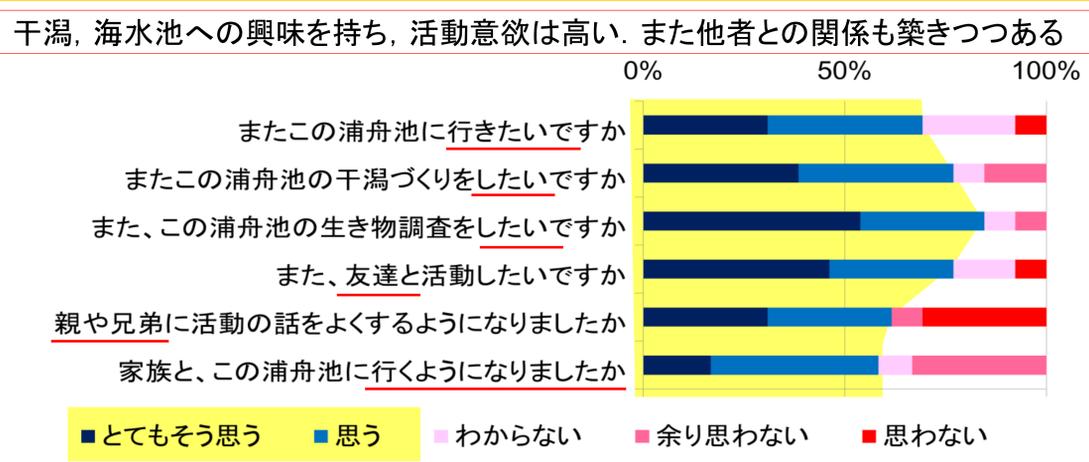
目的
私たちの大切な海の公園というふるさと意識を育む
子どもたちが、海水池の役割、魅力を伝える

対象・頻度・学習場所
小学1年～5年生 10～20人程度参加
月1回, 2時間程度
学童施設内、公園

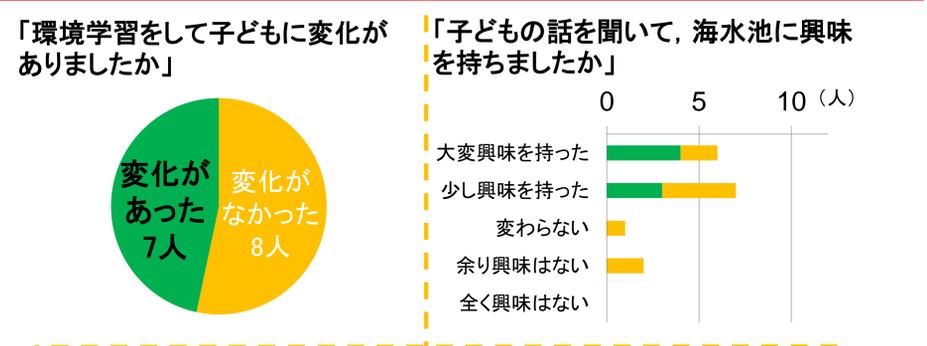
内容
高砂の海辺の歴史と環境を知る (紙芝居、クイズ、ビデオ)
問題に関心をもつ、解決策を考える (観察会、ジュンカンパズル)
自らで環境を改善する (池の藻とり、堆肥づくり、干潟づくり)
海水池の魅力をまとめ、伝える (ポスターづくり)



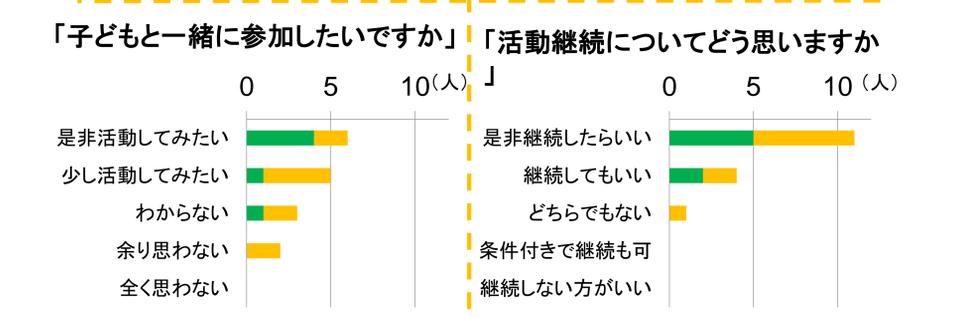
1年のまとめアンケート結果 (学童児童とその保護者)



「変化が見られた」子供の保護者ほど、公園への興味、参加意欲、活動への評価は高い



「ヘドロ」などは印象に残っているが、「干潟づくり」など環境改善への理解は乏しい



今後の展望

干潟のモニタリングをしつつ、4年間かけてゆっくりと干潟を作る
問題解決に向けた活動をやっていることへの理解を高める ⇒ 海水池 (この浦舟池) の歴史を学び、生活との関わりについての学習も行う
市民向けのイベント「うみいけカフェ」を開催、干潟好き女子 Gata girl (ガタガール) を募集し、活動仲間を増やす!

